

こんな対話のスタイルはいかが？

市民	事業者	行政	備考
(計画を立てる)	(計画を立てる)		市民・事業者のどちらからでも良いので、対話に向けた計画を立てましょう
環境報告書を取り寄せる	環境報告書を提供する		事業者の Web サイトから入手するか、事業者の広報担当、環境担当部署へ問い合わせる。エコアクション 21 を取得している事業者は、環境活動レポートが公表されています。 http://www.ea21.jp/list/ninsho_list.php 環境報告書を作成していない事業者は、簡易なもので良いので、作成しましょう。
市民が環境報告書を読んで学習する。わかったこと、わからないことを整理する		(市民を支援する体制を整えておく)	学習会に、行政や専門家等に参加してもらい、ポイントを明確にすることも有効です
他の事業者と比較してどうか等を調べる		(市民を支援する体制を整えておく)	他社の環境報告書で調べたり、行政や専門家等へ問い合わせることも有効です
事業者へ、問い合わせる	質問を受け取る		
対話の場を設ける	回答を用意する 対話の場を設ける	対話の場を設ける	
対話	対話 工場見学ができれば Good	対話	対話は市民と事業者がメインとなりますが、法律や地域のことについて行政が対応することも有効です。対話をスムーズに進めるために、専門家やファシリテーター(進行役)が加わることも有効です
ふりかえり	ふりかえり	ふりかえり	当日の評価をして、今後の対応につなげます
	市民の声を事業活動や環境報告書作成へ反映する		
	どのように事業活動や環境報告書作成へ反映したか市民へ伝える		市民と事業者は、コミュニケーションを継続させることが大切です。メールでイベント情報を連絡する等の方法も有効です

市民・事業者 共通のコミュニケーションのルール

- お互いに、相手の話をよく聴きましょう
- 感情的・攻撃的にならず、冷静に話し合しましょう

1 回の対話で解決するとは思わず、対話を継続する中で、互いの信頼を築いていきましょう

これらのルールを守り、良い対話にしましょう！

<<解説>>

市民は	<p>環境報告書は、事業者が環境負荷や環境保全の取組について、情報発信しているものです。環境報告書を読むことで、わからないこと、不安に思っていたことがいくつか解決できるかもしれません。新たに発見することも、きっとあるはずです。</p> <p>しかし、環境報告書だけでは、自分の知りたいことが書かれていないこともあるでしょう。わからなかったこと、もっと知りたいことを整理して、問題意識を明確にしましょう。</p> <p>そして、事業者へ問い合わせてみましょう。きっと応えてくれるはずです。工場見学を申し出てみることも有効です。</p>
事業者は	<p>市民からの質問に対して、真摯に応えることが大切です。</p> <p>書面で回答することは重要です。新たな質問にも再度答えるようにしましょう。</p> <p>事業者の考えをきちんと伝えることも大切ですし、また、市民の質問の意図をよく理解して対応することが重要です。対話の場をもち、市民の意見をよく聞き、丁寧に説明するようにしましょう。</p> <p>さらに、生産工程や環境対策施設など工場見学などをすることは、市民の理解を深めるのに有効です。</p>